

2018年度（平成30年度）

研究部門名 生物学研究部門

講座名 分子細胞生物学講座

教員名 遠藤 剛

電子メール t.endo 理 faculty.chiba-u.jp

(1) 研究論文などのリスト（印刷中を含む）

	著者・発表者 等	タイトル	発表雑誌・会合 等	巻・号	頁	発行・発表年 等	掲載論文のDOI(付与されて いる場合)
(1)	<u>Takahashi, K.</u> , <u>Itakura, E.</u> , <u>Takano, K.</u> , <u>Endo, T.</u>	DA-Raf, a dominant-negative regulator of the Ras-ERK pathway, is essential for skeletal myocyte differentiation including myoblast fusion and apoptosis	<i>Exp. Cell Res.</i>	376 (2)	168-180	2019	10.1016/j.yexcr.2019.02.002
(2)	遠藤 剛 (共訳)	5 組換え DNA:原理 と応用 (5.1-5.4) 6 タンパク質-核酸相 互作用	分子生物学: ゲノミクスとプロ テオミクス (J. Zlatanova, K. E. van Holde 著, 田村隆明 監訳)			2018	

(2) 卒業研究、大学院修士および博士論文修了指導人数

- ・卒業研究 2名
- ・大学院修士 1名
- ・大学院博士 0名

(3) 教育業績（自己申告、テキストの作成など、授業の工夫など）

なし

(4) 国際会議出席と招待リスト

なし

(5) 新聞や雑誌等で報道された研究成果等（報道媒体，報道年月日，報道内容等）

なし

(6) 国際並びに国内学会での受賞(賞名, その内容, 受賞理由等)

なし

(7) 国際共同研究(共同研究名, 研究内容等)

所属	職名	氏名	共同研究名	研究内容	年度
Institute of Genetic and Biomedical Research, CNR, Italy	Head of Lab	Marie-Louise Bang	筋原線維形成の分子機構とその生理学的意義	筋原線維のアクチン線維形成の分子機構について, 特に遺伝子改変マウスを用いて解明し, さらにその生理学的意義を明らかにする.	30

(8) 地域・社会と連携した教育・研究活動, 学会、国、県などへの協力, など

- 1) 日本生化学会 評議員
- 2) 日本学術振興会 科研費審査意見書作成

(9) 特許(発明者名, 発明の名称, 出願日, 出願番号, 整理番号等) (現時点で公表できるもののみ)

なし

(10) その他

なし